

9月10日から15日まで、中国の北京に行った。中国といえば、マクドナルドなどのチキンナゲットを作っている中国の食品会社が期限切れの肉を使用していたというニュースが記憶に新しい。そのほか、テレビや新聞を通して知る中国に対して、私はあまり良いイメージを持っていなかった。今回、人民大学経済学院との日中交流会の話を聞き、せっかくの良い機会だと思い、この研修への参加を決めた。実際に中国に行ってみて、新しい発見がたくさんあった。たとえば、北京といえば中国の中心地で、ビルがたくさん立ち並んでいるのだが、空気が悪いので4つくらい先のビルから霞んであまり見えなかったのである。中国でPM2.5などの大気汚染が問題になっていることは耳にしていたが、日本では想像できないその景色にとっても驚いた。さらに、中国といえば人口が世界第一位であるが、見学で訪れた現代自動車工場では、たくさんの人の手により一台の自動車が作り上げられていく過程を見たことや、バスや地下鉄に乗った時の乗車率の高さなど、身を以てそれを感じることができた。また、初めて本格的な中華料理を食べたのだが、基本的に日本のものより味付けが濃いように感じたが、おいしかった。

街並みに関して、北京は想像していたよりも都会だった。日本でいう、神戸くらいかなと思う。しかし、大通りを一歩入ると、コンクリートむき出しの建物があつたり、道路が整備されていなかったり、高速道路を走っていると、林にたくさんのごみが捨てられていたり、うまく言葉にできないけれど、発展が進んでいる部分とその発展によって追いやられた部分の差、貧富の差のようなものを強く感じた。

今回の研修を通して、もう一つ学んだことが英語の大切さである。交流会で中国の学生と話すとき、英語がうまくしゃべれなくて、伝えたいことが伝えられないもどかしさをとっても感じた。英語を母国語としない中国でも、学生たちはとても流暢に英語を話していて、英語の大切さを感じた。英語が話せなくても、単語でつないだり、絵をかいたり、漢字を書くことで、コミュニケーションをとり、日中の学校制度の違いや、大学で流行っているスポーツなどを話した。英語をうまく話せたら、もっともっと話ができたとと思うので、今後、英語の学習に力をいれたい。

